

今日のトピック 足元で上昇に転じた原油価格（2019年6月）
7月初めの主要産油国の会合に注目

ポイント1 原油価格は足元で反発
米・イラン関係の緊迫化などが背景

- 北米の代表的な原油価格であるWTI原油価格は、今年4月以降、軟調な動きとなっていました。6月に入って上昇に転じました。
- イランによる米国の無人偵察機の撃墜を受けた両国間の緊張の高まりに加え、米原油在庫の減少、米製油所の爆発などが背景にあります。

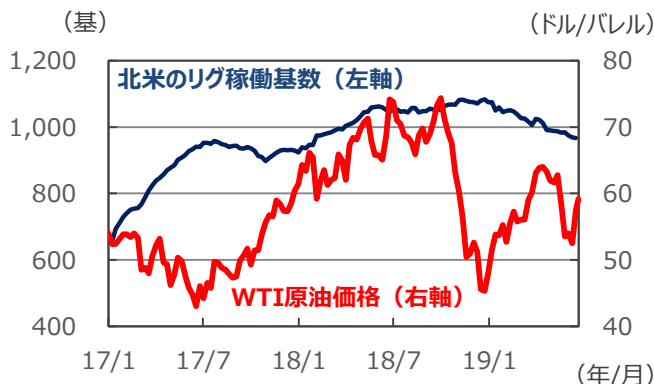
ポイント2 OPEC産油量は低位推移
現状のままなら今年はやや需要超か

- 6月13日に公表された石油輸出国機構（OPEC）月報の6月号によると、OPEC加盟国の原油生産量は低水準で推移しています。5月の生産量は日量で前月比▲23.6万バレルとなる2,988万バレルでした。
- 2019年の原油需要見通しは、全世界で前年比+1.2%の日量9,987万バレルと予想されています。需給が均衡するにはOPEC加盟国で3,052万バレルの供給が必要とみられ、現状程度の産油量が続くならば、今年是需要が供給をやや上回りそうです。

今後の展開 7月初めの主要産油国の会合では今後の減産幅に注目

- 供給面では、産油国の政情不安に加え、米国とイランの対立が激化していることから、供給懸念が意識されやすい状況が続くとみられます。
- 協調減産については、7月1日にOPEC総会、2日にOPEC加盟国および非加盟国の主要産油国による会合が開かれる予定です。協調減産自体は続くと思われるなか、7月以降の減産幅がこれまでの日量120万バレルからどの程度変更されるかが焦点となっています。

【WTI原油価格と北米のリグ稼働基数】



(注) データは2017年1月6日～2019年6月26日。ともに週次データ。リグ稼働基数は2019年6月21日まで。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【世界の原油需給見通し】

	2017年	2018年	2019年
世界需要	97.3	98.7	99.9
供給	96.1	99.0	99.9
非OPEC	64.1	67.1	69.4
OPEC	32.0	31.9	30.5
需給バランス	▲1.2	0.3	0.0

(注1) 需給バランス=供給-需要。▲は需要超過。
(注2) 単位は百万バレル(日量)。
(注3) 2017年、2018年は実績。2019年はOPECによる予想。ただし、2019年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。
(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。
(出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

- 需要面では、米中貿易摩擦の動向には注意を要しますが、ドライブシーズンに入った米国ではガソリン需要の高まりが期待されることなどから、需要は底堅い展開が見込まれます。米中貿易摩擦については、今週末の20カ国・地域（G20）首脳会議における米中首脳会談が注目されます。

ここもチェック! 2019年6月25日 2019年7月の注目イベント
2019年5月31日 4月下旬から軟調な原油価格（2019年5月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。